

平成 13 年度 (2001 年)

事業報告書

財団法人 日本テニス協会

## 目次

1. 平成13年度 主要会議開催報告
2. 平成13年度 テニス関係 表彰者・物故者
3. 平成13年度 表彰伝達式 受賞者リスト
4. 平成13年度 各委員会事業報告

## 各委員会報告目次

### ■総務本部

1. 総務委員会 (岩淵 元) ..... 1
2. 選手委員会 (右近 憲三) ..... 2
3. 医事委員会 (別府 諸兄) ..... 3

### ■強化本部

4. 強化委員会 (神和住 純) ..... 6
5. スポーツ科学委員会 (梅林 薫) ..... 7

### ■ジュニア育成本部

6. ジュニア委員会 (藤井 道雄) ..... 8
7. 競技者指導育成推進委員会 (広瀬 均) ..... 9

### ■トーナメント本部

8. 国際大会委員会 (野地 俊夫) ..... 13
9. 国内大会委員会 (姫井 義也) ..... 14
10. 審判委員会 (森井 靖忠) ..... 16
11. ベテラン委員会 (佐藤 國三郎) ..... 18
12. 実業団委員会 (斉藤 征隆) ..... 21
13. 国体委員会 (森 清吉) ..... 22
14. 個人登録委員会 (会川 克行) ..... 23

### ■普及指導本部

15. 普及指導委員会 (正木 茂) ..... 24

### ■国際本部

16. 国際委員会 (内山 勝) ..... 26

### ■マーケティング本部

17. クラブJTA推進委員会 (橋本 有史) ..... 29
18. 企画委員会 (辻 季之) ..... 30
19. 広報委員会 (橋本 有史) ..... 31
20. プロモーション委員会 (青木 弐) ..... 32

### ■情報本部

21. 情報委員会 (橋口 健蔵) ..... 33

### ■ジャパンオープン本部

21. ジャパンオープン委員会 (有沢 三治) ..... 34

### ■専務理事直轄

22. ドーピングコントロール委員会 (助川 卓行) ..... 35
23. ドーピング判定委員会 (渡邊 康二) ..... 37

# 平成 13 年度 主要会議報告

## 平成 13 年

3月28日(水)	第1回	理事会	岸記念体育会館 5階会議室
5月1日(月)	第1回	常務理事・本部長会議	代々木第二体育館会議室
5月19日(金)	第2回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館 4階会議室
5月30日(水)	第2回	理事会	代々木第二体育館会議室
5月30日(水)	第1回	評議員会	代々木第二体育館会議室
6月19日(金)	第3回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館 4階会議室
7月19日(木)	第4回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館 4階会議室
7月19日(木)	第4回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館 4階会議室
8月21日(火)	第5回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館 4階会議室
9月20日(木)	第6回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館 4階会議室
10月22日(月)	第7回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館 4階会議室
11月21日(水)	第8回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館 4階会議室
12月14日(金)	第9回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館 4階会議室

## 平成 14 年

1月22日(火)	第10回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館 4階会議室
2月19日(火)	第11回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館 4階会議室
3月19日(火)	第12回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館 4階会議室
3月27日(水)	第3回	理事会	岸記念体育会館 5階会議室
3月27日(水)	第2回	評議員会	岸記念体育会館 4階会議室

## 平成 13 年度 テニス関係表彰者

- 9月14日(金) 宮城黎子氏(評議員)が国際テニス連盟(ITF)より AWARD FOR SERVICES TO THE GAME(国際テニス功労者賞)を受賞した。
- 1月23日(水) 寺地貴弘選手が第51回読売新聞社『日本スポーツ大賞』を受賞した。

## 平成 13 年度 テニス関係物故者

- 9月10日(月) グリーンテニスクラブ代表飯田太郎氏が逝去された。
- 1月18日(金) 元デビスカップ選手鳥羽貞三氏が逝去された。
- 3月21日(木) 本協会元理事であった田中圭司氏が逝去された。

# 平成13年度 表彰伝達式 受賞者一覧

## 功労賞

- J T A 推薦 : 庄 司 秀 雄  
各地域協会推薦  
北海道テニス協会 : 芳 川 雅 勝  
東 北テニス協会 : 佐 藤 勇 ・ 金 澤 隆 機  
北信越テニス協会 : 真木山 麓  
関 東テニス協会 : 菅 一 成 ・ 櫻 井 國 臣 ・ 坂 口 禧一朗  
佐 野 郁 子 ・ 青 山 悦 二 ・ 森 井 靖 忠  
秋 山 浩 子 ・ 中 澤 雍二郎  
東 海テニス協会 : 坂 井 繁 之  
関 西テニス協会 : 松 井 幸 雄 ・ 西 井 幸紀雄 ・ 畑 山 明  
掛 勇 ・ 宮 田 義 廣  
中 国テニス協会 : 津 島 則 之

## 企業賞

- ヨネックス株式会社 ・ 株式会社セポック

## 特別賞

- NOVA グループ

## 最優秀選手賞

- 杉 山 愛

## 優秀選手賞

- 鈴 木 貴 男 ・ 本 村 剛 一 ・ トーマス 嶋田 ・ 寺 地 貴 弘  
小 畑 沙 織 ・ 藤 原 里 華

## ジュニア大賞

- 添 田 豪 ・ 川 床 萌 ・ 瀬 間 友里加

## 優秀指導者賞

- 笠 原 康 樹 ・ 武 政 文 雄 ・ 植 田 実

## クラブ賞

- 朝日生命久我山スポーツセンター

以上

# 平成 13 年度 各委員会活動報告

## 総務委員会

委員長：岩淵 元

### 平成13年度事業目標：

- 1.当委員会分掌業務を着実に遂行していく。
- 2.JTA 諸行事の推進・事業の活性化のための周辺整備に努めていきたい。

### 目標達成度：

- 1.諸規程の整備・見直しについては、継続作業中。
- 2.理事増員の件については、文部科学省との折衝の結果断念せざるを得なかった。
- 3.その他の業務については、ほぼ計画通り遂行した。

### 具体的事業名：

- 1.名誉総裁のお成りについて
  - 1)2001年4月5日 デ杯インド戦 抽選会にお成り
  - 2)2001年4月27日 フェド杯アルゼンチン戦 抽選会にお成り
  - 3)2001年10月5日 AIG オープン ご観戦賜る
- 2.皇孫ご誕生祝賀ご記帳  
2001年12月4日 盛田会長 東宮御所にてご記帳
- 3.諸規程の新設、改定に関する事項
  - 1)寄付行為ならびに同細則の見直しについて、検討を行った。理事増員については、関係当局より、昨今の公益法人に対する世間の目が厳しい中で、原則 20 名以内の線を崩す確たる理由なし、として受け入れられず。
  - 2)各委員会からの規約・契約等に関し意見具申を行った。
  - 3)事務局「就業規則」付帯諸規定の整備については、中断していたが、早々に検討再開し、答申を取り纏める。
- 4.表彰に関する事項  
JTA 表彰規程に基き選考の結果、平成 12 年度として個人 34 名、6 団体の方々を表彰、5 月 30 日伝達式を挙行了した。
- 5.JTA 創立 80 周年記念事業  
2003 年 3 月 記念式典開催・80 年史の発刊 実行委員会発足。
- 6.テニスに関する用具の認定、公認または推薦に関する事項  
協力会社との友好関係をより一層高めた。
- 7.各種事業等の公認、後援に関する事項  
各種テニス大会等の公認、後援申請に対し適宜に対応した。同時に公認、後援等の基準マニュアル作りを進めた。
- 8.その他
  - 1)JTA ニュース業務は広報委員会に移管。

以上

# 選手委員会

委員長：右近 憲三

## 平成13年度事業目標：

- 1.JTA 競技者規程に基づく競技者の認定
- 2.全日本選手権時のキッズ・ジュニアクリニックの開催

## 目標達成度：

- 1.平成 13 年度プロフェッショナル登録者… 171 名  
内、新規登録者… 15 名  
平成 13 年度アマチュア復帰者… 7 名
- 2.キッズ・ジュニアクリニック……全日本最終日 2 日間開催で 102 名の参加

## 具体的事業名：

- 1.平成 13 年度プロフェッショナル登録者レベル分け、登録証の発行

レベル	I	I TP	II	II TP	III	III TP	IV	合計
男子	14	20	8	12	6	21	36	117
女子	13	26	3	3	0	6	3	54
合計	27	46	11	15	6	27	39	171

平成 13 年度プロフェッショナル登録料 10,000 円× 21 名 = 210,000 円  
5,000 円× 150 名 = 750,000 円  
合計 960,000 円

- 2.新規プロフェッショナル登録者の承認
- 3.アマチュア復帰申請に対する実績審査、承認
- 4.全日本選手権時のキッズ・ジュニアクリニックの開催
- 5.全日本選手権などトーナメントについての選手側からの検討

以上

# 医事委員会

委員長：別府 諸兄

## 平成13年度事業目標：

- 1.日本テニス界における、メディカルサポート体制を早急に整備確立し、世界へ飛躍する選手の育成強化に寄与すると共に、全国でのテニスの健康的な普及に貢献する。
- 2.選手・コーチなどに、大会・練習・トレーニングの現場で、可能な限り密着し、信頼関係の醸成により、効果的・効率的なメディカルサポートを行う。
- 3.健康増進面の情報を発信し、広くテニス界の役に立つことを目指す。

## 目標達成度：

- 1.トーナメントドクター・トレーナーの派遣  
派遣要請の有った国際大会・全日本大会・及びデ杯・フェド杯などにつき、5 大学（聖マリアンナ医科大学、東京医科歯科大学、日本大学医学部、昭和大学医学部藤ヶ丘病院、東京慈恵会医科大学）の各整形外科医局のご協力を頂き、ローテーション体制でドクターを派遣した。  
トレーナーについてもこれらの大会には、その都度、チーフトレーナーを中心とする数名のトレーナーチームを派遣し、要望に添った運営を行った。その他、インカレ・全日本学生王座等学生の大会や、デ杯合宿・デ杯チーム帯同、更に ジュニア大会にも、オフィシャルトレーナーを派遣した。要望に十分応えたと考える。
- 2.テニス傷害について、スポーツ医学面からの対策を実施する。
  - 1)医師のネットワークによる選手に対するメディカルサポートについては、ドクターの連携体制を決定したが、他委員会との打ち合わせの機会を設けることが出来ず、選手への伝達が不十分であったため、機能するまでには至らなかった。来年度再スタートする予定である。
  - 2)「テニス・メディカルセミナー」を 4 回開催した。回を追う毎に参加者数が増大し、好評を博している。
  - 3)テニス傷害についてのスポーツ医学面からの研究は、「テニス肘の研究」をテーマとし、研究を進めたが発表するまでには至らなかった。
- 3.トレーナー業務運営体制の確立
  - 1)大会・デ杯・フェド杯でのトレーナー活動は、トレーナー連絡網を作り、円滑に、要望に応えた。
  - 2)ナショナルチームのサポートについても、部会員及び協力トレーナーの調整により適切に対応した。
  - 3)トレーナー育成業務については、準備段階に止まった。
- 4.地域メディカルサポート体制の整備
  - 1)地域ごとの担当ドクターを決め、地域の選手等がメディカルサポートを受けることが出来る体制をスタートさせた。
  - 2)認定トレーナーの全国ネットワーク造りは、準備段階に止まった。
- 5.テニス傷害に関する情報のテニス界への発信（目標）
  - 1)JTA ホームページに、医事委員会ホームページを解説し、メディカル情報を、平成 13 年 11 月 26 日より掲載した。
  - 2)テニス雑誌 5 社に、テニス・メディカルセミナーの告知文を掲載依頼し、ご協力頂いている。また、セミナー内容の雑誌への掲載もスタートしている。

- 3) 公認指導員講習会への、講師派遣依頼に応え、A級・B級・C級とも、講師を派遣した。

## 具体的事業名：

1. トーメントドクター及びトレーナーの派遣
  - 1) 国内で開催された主な大会に、選手の傷害の処置並びに ATP/WTA トレーナーと協調しての、選手のケアのため、ドクター・トレーナーを派遣した。大会は、次の通りである。
  - 2) 「AIG ジャパンオープン」、「トヨタプリンセスカップ」、「全日本テニス選手権大会」、「東レ・パンパシフィックテニス」、「朝日レディス全国決勝大会」、4月6日～8日有明コロシアムで行われた「デ杯対インド戦」及び、4月28日29日有明コロシアムで行われた「フェド杯対アルゼンチン戦」
  - 3) ジュニア大会へも派遣が必要との要望もあったが、予算対応が出来なかったため、今年度は、試みとして「全国小学生テニス選手権大会」に、3日間ドクターを派遣し、選手・父兄・コーチ・指導者を対象とするメディカル講習会も開催した。
  - 4) トレーナー部会は、その他学生の大会、インカレ・全日本学生室内・全日本学生王座や、ジュニア大会にオフィシャルトレーナーを派遣した。
  - 5) その他、デ杯合宿・デ杯チーム帯同トレーナー業務にも、派遣した。
2. テニス傷害について、スポーツ医学面からの対策を実施
  - 1) 医師のネットワークによる、選手に対するメディカルサポート体制については、まず、選手が行きやすい地理的条件の良い総合クリニックでの診療を第一段階とし、傷害の状況によっては、それぞれ専門のドクターのところへ行っていただくという連携体制を具体的に決定した。しかし、他委員会との打ち合わせの機会を設けることが出来ず、選手達に、この体制の周知が出来なかったため、機能するまでには至らなかった。来年度は、医師とトレーナーの連携を更に深め、相互の情報交換により、選手達へのメディカルサポートを実現する。
  - 2) 「テニス・メディカルセミナー」を4回開催した。開催状況は以下の通りである。
    - ① 6月2日（土）開催  
テーマ：「テニスに必要なテーピングの知識」  
講師：鹿倉 二郎氏（ソニー企業株式会社・アスレチックトレーニング研究所所長）  
参加者数：86名
    - ② 9月29日（土）開催  
テーマ：「テニスのアスレチックリハビリテーション」  
講師：福林 徹氏（東京大学総合文化研究所・教授）  
参加者数：77名
    - ③ 12月15日（土）開催  
テーマ：「テニスと栄養」  
講師：田口 素子氏（国立スポーツ科学センター栄養指導室・管理栄養士）  
参加者数：82名
    - ④ 3月16日（土）開催  
テーマ：「テニスと視覚能力」  
講師：真下 一策氏（スポーツビジョン研究会・代表）  
参加者数：116名
  - 3) テニス傷害についてのスポーツ医学面からの研究は、「テニス肘の研究」を取り上げ担当を決め、数回にわたるオンコートでの実験、データの収集を行った。しかし、データを整理分析し、その結果を発表するまでは進捗しなかった。引き続き平

成 14 年度に於いてもこのテーマに取り組む予定である。

### 3. トレーナー業務運営体制の確立

- 1) 大会・デ杯・フェド杯でのトレーナー活動は、トレーナー連絡網を作り、その都度チームを編成し派遣した。チームは、チーフトレーナーを核とし、数名のアシスタントトレーナーで構成しているが、トレーナーには、それぞれ勤務先の業務があるので、固定したメンバーでチームを構成することは困難であり、例えば、全日本選手権大会の場合では、14名のスタッフにより、日毎にチームを編成し対応した。
- 2) ナショナルチームのサポートについても、部会員及び協力トレーナーの調整により対応したが、それぞれ日常の診療業務の間でやり繰りするのが厳しい状況である。特に、ナイキのサポートが今年度から無くなったので、苦しい状態である。
- 3) トレーナー育成業務については、今年度は、準備段階に止まった。ドクターとトレーナーは、車の両輪として活動するのが望ましい。トレーナーの資質の向上の為に、ライセンス制を日本テニス協会として実施すべく規約案を作成し、事業としての収支案も作成したが、具体化するまで進める事が出来なかった。

### 4. 地域メディカルサポート体制の整備

- 1) 地域ごとに、ご協力頂けるドクターが決まり、医事委員会ホームページにも、ドクター氏名・勤務先・勤務先電話番号を掲載し、選手等が、ホームページの検索によりメディカルサポートを受けることが出来る体制をスタートさせた。しかし、地域協会などとの連携がまだ不十分で、大会等現場での協力は、一部の地域に止まった。
- 2) 全国の体協公認スポーツドクター（JTA 推薦）の活性化を具体化すべく、実施案を協議検討し、平成 14 年度からスタートする準備を行った。
- 3) 公認スポーツドクターの養成策を検討し、規約案を作成した。
- 4) 認定トレーナーの全国ネットワーク化については、準備段階に止まった。

### 5. テニス傷害に関する情報のテニス界への発信

- 1) JTA ホームページに、メディカル情報を平成 13 年 11 月 26 日より掲載した。医事委員会の基本情報の他、テニス・メディカルセミナーの案内・講演要旨の掲載を行っている。
- 2) テニス・メディカルセミナーの告知文を、テニス雑誌 5 社に掲載依頼しているが、これにより、医事委員会の活動にご理解頂き、雑誌へのセミナー内容の掲載も、始まった。また、新聞社系週刊誌もセミナーに関心を寄せ、セミナーに参加頂いており、その活用も具体化しつつある。
- 4) 公認指導員講習会への、講師派遣依頼があり、A 級・B 級・C 級とも、整形外科、内科、アンチ・ドーピングについての、講師を派遣した。それに伴い、医事委員会内に講師グループを編成し、今後の依頼に対応出来る体制を作った。

以上

# 強化委員会

委員長：神和住 純

## 平成13年度事業目標：

- 1.強化委員会は強化委員及びナショナルコーチングスタッフを中心に、スポーツ科学委員会のサポートを得ながら、少数精鋭・経費削減を心がけ、世界のトップレベルを目指しナショナル選手の技術向上を目的として活動する。
- 2.男子強化と女子強化を分割し、責任者の指揮のもと、各担当者がデ杯、フェド杯、オリンピック、アジア大会、ユニバシアード、トップジュニア大会等における海外遠征及びその為の合宿、練習会、選手選考（WCを含む）視察等に同行し任務を遂行する。これらの大会は、ベストメンバーを義務付ける。

## 目標達成度：

新しくスタートした強化委員会は全事業目標を達成する為に全力で活動を行ない、成果も上がってきている。デ杯は18年ぶりに韓国を破り、フェド杯はアジアオセアニアゾーン2位でワールドグループプレーオフの出場権を得たので、平成14年度も継続して活動を行なっていく。

## 具体的事業名：

- 1.競技力向上の部における各地の指導者講習会及び一貫指導システムとしての発掘・育成・トップ選手への指導方針計画のプロジェクトはジュニア育成本部と協力しながら行なった。
- 2.強化・育成・普及のための事業についてナショナルコーチングスタッフが中心となり必要に応じて各地へ派遣し、練習会・講習会などに協力可能な体制をとり実行する。
- 3.デ杯アジアオセアニアゾーン1回戦の韓国戦に勝利。フェド杯アジアオセアニアゾーン2位ワールドグループプレイオフに出場。
- 4.ITF ワークショップに参加
- 5.国立科学スポーツセンターにて、トレーニング測定合宿を行なう。

以上

# スポーツ科学委員会

委員長：梅林 薫

## 平成13年度事業目標：

強化委員会との連携を図り、強化指定選手に対して競技力向上に関してのスポーツ科学的サポート（医学、生理学、栄養学、心理学、戦術、技術、コンディショニング等の分野を中心としてのアプローチ）を行うことを第一の目的とする。また国内、海外等でのスポーツ科学に関する情報を集め、テニス指導者また全国の選手に対してのスポーツ科学の理論と実践を啓蒙していき、正しい指導方法を確立していくことを第二の目的とする。

## 目標達成度：

強化委員会との連携は勿論のこと、今年度は、強化指定選手および地域での選抜されたジュニア選手に対して体力およびフィールド能力を客観的に分析することができた。昨年度の10月に国立スポーツ科学センターが完成し、12月そして1月と2度に渡って、利用でき、また研究員ともコミュニケーションがとれたことも収穫であった。今後のこの施設の活用についても、積極的に考えていきたいと思っている。また、ITF ワークショップも参加し、世界の指導方法やトレーニング法、またスポーツ科学的サポート等の情報も得られたことも収穫にひとつであった。また世界レベルの試合も分析ができ、今後の日本のテニスの指導法にプラスになるようにまとめていくことが今後の課題である。

## 具体的事業名：

- 1.四大大会（全米オープン、全豪オープン）の戦術、技術分析  
全豪オープンのコーチ会議および ITF ワークショップ（バンコク、タイ）の参加。
- 2.デ杯、全日本ジュニア選手権大会、全国小学生テニス選手権大会、全国中学生テニス選手権大会、AIG オープン等のゲーム分析
- 3.ジュニアテニス選手の傷害、体力に関する調査、研究
- 4.ナショナル強化指定選手のスポーツ科学的サポート  
（競技力向上のための測定および体力、メンタル、栄養等のサポート）
- 5.プレーヤーズノートの改訂作業

以上

# ジュニア委員会

委員長：藤井 道雄

## 平成13年度事業目標：

1. ナショナルジュニアチームの選考及び育成強化策の企画並びに検討
2. 日本テニス協会主催ジュニア大会の運営・協力
3. 地域ジュニア委員会活動の活性化

## 目標達成度：

1. ワールドユース及びワールドジュニアチームのアジア予選の派遣（H13.5）及びトヨタジュニアチームのオセアニア派遣（H13.6～7）を実施。  
目標達成度 70%
2. JTA 主催ジュニア大会 12 大会を視察し、主管協会に対し協力願う。  
目標達成度 90%
3. 13 年度ジュニア委員会 3 回、ジュニア常任委員会年 1 回実施した。  
目標達成度 70%

## 具体的事業名：

1. 2001 DUNLOP CUP 全国選抜ジュニアテニス大会を通じてワールドジュニアチームの選考を行うと共に、アジア予選の敗退の台折をコーチ間にて協議し、13 年度ジュニア育成強化策の一環とした。
2. トヨタジュニア大会をはじめ、JAPAN OPEN Jr.を含む 12 大会に対し運営協力をを行う。
3. 2002 年度よりトヨタジュニア大会が、16 才以下に変更になる事に伴う選手選考基準を整備。
4. 全国 7 地域に対し、ジュニア強化の為のナショナルコーチ及びジュニアコーチを派遣し、地域のジュニア指導者並びにジュニア選手を集めての講習会を実施し、本年度のジュニア選手の育成強化を地域コーチに依頼。
5. 地域選抜ジュニアのトレーニング測定合宿の実施（H14.1/12～14）  
東京西が丘に設立された国立スポーツ科学センターにおいて、14 才以下の地域よりのジュニア選手計 24 名を集めて体力測定の合宿を実施した。  
少なくとも 14 才において、この程度は保持しておかねばならない基礎体力について地域ジュニア選手及びコーチに対し認識せしめた。

以上

# 競技者指導育成推進委員会

委員長：広瀬 均

## 平成13年度事業目標：

一貫指導システムを組織的に推進していく為に

- 1.指導マスタープランの作成
  - 1)指導要領書の作成
  - 2)指導要領ビデオの作成
- 2.地域・都道府県トレーニングセンター設置のための具体的施策の確立。
- 3.ナショナルトレーニングセンター設置のための準備。

## 目標達成度：

### 1.一貫指導システム構築のための基本方針について

日本テニス界は、伊達公子選手、松岡修造選手、沢松奈生子選手らの引退に伴い、杉山愛選手、平木理化選手らが全仏、全米選手権（グランドスラム大会）でダブルス、混合ダブルスで優勝しているにもかかわらず、人気・選手の活力が徐々に衰退しはじめているのが現状である。

ジュニア部門においても、ITF ジュニアランキング上位にいるのが、添田選手が 50 位台にいるのみでさびしい限りである。

このような状況からみて、日本テニス協会は、早急に一貫指導システムを確立し、特に低年齢層の強化から推進しなければならないことを先ず確認した。

これを前提に、

- ①昨年 3 月に閉鎖された朝日生命から借用していたナショナルトレーニングセンター（NTC）に替わる場所を早急に見つけ、情報の発信地としなければならない。
- ② NTC のテニスコートが無理でも、情報の発信地の昨日はつくらなければならない。
- ③さらに、地域トレセン、ブロックトレセンへの情報機能を潤滑にするためのシステムを確立する必要がある。
- ④そのために、この一貫指導システム推進プログラムを作成し、9 地域の理事長はじめ強化委員長、ジュニア委員長、普及委員長らの中心となる役員に説明会を開くこととした。

### 2.競技者育成プログラムの基本方針（日本テニス協会強化指針）の作成について前記のように低迷する日本テニス界を活性するためには、システムティックに選手を育成しなければならないが、もう 1 つは、きちんとしたプログラムに基づいて育てられなければならない。その基本方針を「日本テニス協会強化指針」として、発信することとした。主な内容は、

- ①日本のテニスの現状
- ②スポーツ文化のなかのテニス
- ③日本テニス協会の目標（短・中・長期）
- ④トップへの道一何をなすべきか
- ⑤具体的強化方針（一貫指導システム）
- ⑥トレセン構想
- ⑦指導者の育成指針 等

このような内容で 3 月までに作成し、来年度（14 年度）にはこれに基づいて各地域・都府県へ実践指導にあたることを決めた。

3. 指導者のためのビデオ作成については、強化指針の作成の前段を受け、日本のジュニアが世界のトップになるためには、いま何をやらなければならないか、ということテーマに2つのビデオを作成することにした。

(1) トップへの道 (SERIES I) - 技術向上ドリル実践例

(2) トップへの道 (SERIES II) - ウォーミングアップ及び技術導入法

(1) の技術向上ドリル実践例については、

- ①いかなる状況からでも思い通りにボールをコントロールする。
- ②プレーヤー自身がそれぞれの技術レベルを知り、それぞれの目的をもって練習する。
- ③スピードと安定性のレベルを向上させる。
- ④低年齢からあらゆるショットを練習する。
- ⑤常にフットワークを意識して練習する。
- ②サービスとレシーブは、試合の中では重要なショットとして意識しているが、それを練習の中でも重要であることを意識させる。等を意識して作成した。

(2) のウォーミングアップ及び技術導入法については、

- ①きちんとしたストレッチのやり方とその重要性を強調する。
- ②トレーニングについても、基本の基本をしっかり身につけさせることを目的に作成する。(特に低年齢においても)等をベースに作成した。ビデオについては10月に完成し、即全国展開することができ、10月～3月までの13年度下期には、各地域におけるジュニア&ジュニア指導者講習会において、

① 2時間のビデオ講習会

② 3～4時間のビデオ実践練習

ができたので、ある程度ビデオ制作の意図をわかってもらえたのではないかと思う。開催日、場所は以下の通りである。

東 北	平成13年 9月23日～24日	ジュニア合宿
	平成14年 1月18日～20日	ジュニア&ジュニアコーチ講習会
北信越	平成14年 2月 9日～10日	ジュニア合宿
	平成14年 3月 9日～10日	ジュニア&ジュニアコーチ講習会
関 東	平成13年11月 3日	ジュニア合宿
東 海	平成14年 1月 3日	ジュニア&ジュニアコーチ講習会
関 西	平成13年12月22日～24日	ジュニア&ジュニアコーチ講習会
中 国	平成13年12月 8日～ 9日	ジュニア合宿
	平成13年12月22日～24日	ジュニア&ジュニアコーチ講習会
四 国	平成14年 2月 9日～10日	ジュニア合宿
九 州	平成13年10月13日～14日	ジュニア合宿
	平成14年 3月15日～17日	ジュニア&ジュニアコーチ講習会

4. 一貫指導システム構築の為の地域協会への説明会については、各地域に対して、プロジェクトメンバーと地域指導者との交流を図り、一貫指導内容の説明会及び意見交換会を行う。内容は次のとおりである。

1) 一貫指導システム推進の考え方の説明

- ① 文部科学省のスポーツ振興基本計画について
- ② JOC 競技者指導育成推進の基本構想について
- ③ JTA 一貫指導システム推進について

a ハード面の推進について、b.ソフト面の推進について

5.プロジェクトメンバーによる海外研修会参加については、国際テニス連盟主催、第12回 ITF Worldwide Coaches Workshop が 2001 年 10 月 28 日～ 11 月 1 日の日程でタイ・バンコクにて開催され、推進委員会より岩月委員が参加。全日程を通じ、年齢別に分かれたスケジュールとなっていた。初日および 2 日目までは 14 才以下について、3 日目は 18 才以下、4 日目と最終日は 18 才いじょうとプロフェッショナルに関して、ITF が把握する最新のテニスの傾向についての講義または実技が行われた。内容は次のとおりである。

1) 初日

- ① スペイン、オーストラリア、ベルギー、オランダそして ITF の代表による選手育成の全体像に関するパネルディスカッション（講義）
- ② 12 才以下における戦術&技術（オンコート実技）
- ③ 14 才以下の選手育成における基本事項（講義）
- ④ タイにおける選手育成（オンコート実技）
- ⑤ 14 才以下育成における医学的側面（講義）

2) 2 日目

- ① 14 才以下における技術的トレーニング（オンコート）
- ② 14 才以下における身体的成長（オンコート）
- ③ ジュニアプレーヤーにおける心理的成長（講義）
- ④ ITF と ITF の取り組み（講義）
- ⑤ Women's Tennis における課題（講義）

3) 3 日目

- ① トーナメント移動中におけるジュニア選手の指導法（オンコート）
- ② 攻撃的ネットプレーについて（オンコート）
- ③ 18 才以下の戦術（オンコート）
- ④ パワーと手にしう（講義）

4) 4 日目

- ① スペインのハイ・パフォーマンス・センターについて（オンコート）
- ② テニスにおける身体トレーニング（オンコート）
- ③ 選手育成に適したストリングとストリングの張り方（講義）
- ④ 上級者のためのダブルス戦略（講義）
- ⑤ 選手のための「自身」をつける 25 の方法（講義）
- ⑥ パワーとテニス（講義）
- ⑦ 現在および将来のトップテニス（講義）

5) 5 日目

- ① プロ選手のシングルス戦略（オンコート）
- ② トップへの道（初心者からデビスカップチャンピオンまで）（オンコート）
- ③ 女性プレーヤーへの対処法（講義）
- ④ 上級プレーヤーのダブルス戦術（オンコート）
- ⑤ トッププロのフィジカルトレーニング（オンコート）

6. ナショナルトレーニングセンター設置のための準備

- 1) 昨年 3 月に閉鎖された朝日生命スポーツセンター内の練習コート（NTC）の代替地を早急に探すことが第一と考えるが、現在西が丘国立スポーツ科学センターと折衝中であり、条件さえあれば、西が丘 NTC として発足することが可能になる。テニスコート 2 面（ナイター付）は確保できる。（本来はインドアコートであること

が望ましい)

- 2) さらに、一貫指導システム確立のための地域トレセン及びブロックトレセンの早期設置が必要である。現在のところ、地域としては東北、関西、中国、九州地区で情報センターとしての機能を確保できると思われるが、他地域にも設置が必要となる。又、ブロックトレセンとしても、東北4県、富山、三重、岐阜、愛知、静岡、大阪、兵庫、広島、香川、福岡、佐賀等はすべて先行しているので、他府県にも積極的に推進する必要がある。特にお膝元の関東地区が出遅れているのが大きな課題として残る。

**具体的事業名：**

- 1.一貫指導システム構築の為の推進委員会の実施。
- 2.強化指針とビデオ作成の為の研究会。
- 3.指導ビデオを全国展開させる為のプロジェクトメンバーとナショナル、ジュニアコーチとの勉強会を実施。
- 4.一貫指導システム構築の為の地域協会への説明会を実施。
- 5.プロジェクトメンバーによる海外研修会参加。

以上

# 国際大会委員会

委員長：野地 俊夫

## 平成13年度事業目標：

- 1.国際大会の開催場所（カレンダー）決定と、大会継続への努力。
- 2.国際大会のディレクターズ会議を設置し、大会目的の明確化を図る。また、各大会共通課題の解決に努める。
- 3.国際大会開催に関する、大会申請（報告）規定の整備。

## 目標度達成：

- 1.国際大会開催カレンダーの決定。
- 2.国際大会ディレクターズ会議を通し、各大会との連動を図り、大会運営の推進に努めた。
- 3.上記 1.ならびに 2.の業務を通し、以下のデータ整備を行うことが出来た。
  - 1) 各国際大会におけるスポンサー状況等の大会基礎項目の一覧
  - 2) 各国際大会における、出場選手（ベスト 16）の活動一覧
  - 3) 国際大会申請書（報告書）のマニュアル化

## 具体的事業名：

- 1.デ杯（インド戦）の開催と運営… 4月6日～4月8日
- 2.フェドカップ（スウェーデン戦）の開催と運営… 7月21日～7月22日
- 3.AIG ジャパンオープンの現場補佐… 10月1日～10月7日
- 4.以下の会議を通じ、各大会の目標に向けた活動を促す。
  - 1) JTA 女子サーキット ディレクターズ会議… 4月19日
  - 2) JTA 女子サーキット 2002年継続検討会議… 12月3日
  - 3) JTA グランドスラム募金 F6～F8 ディレクターズ会議… 5月21日
  - 4) JTA グランドスラム募金 F6～F8 反省会… 11月11日
  - 5) 第1回国際大会トーナメント・ディレクターズ会議… 3月11日
  - 6) 第1回国内大会・国際大会ディレクター合同会議… 3月11日
- 5.その他国際大会開催の現場サポート等
- 6.具体事業推進にあたり、国際委員会を5回開催、各大会の課題解決に努力をした。
  - 第1回：4月7日
  - 第2回：4月28日
  - 第3回：5月21日
  - 第4回：1月30日
  - 第5回：3月11日

以上

# 国内大会委員会

委員長：姫井 義也

## 平成13年度事業目標：

- 1.当初目標（平成13年3月22日作成当時）
  - 1)国内におけるトーナメントの運営、管理の検討
  - 2)各大会（ジャパンオープンを除く）の収支改善と決算のスピードアップ
  - 3)大会における協賛の機会均等化（大会使用球関連）
  - 4)各大会のディレクター制度の確立と責任の明確化
  - 5)スポンサー獲得、TV放映を可能にするための大会企画の強化
  - 6)諸規則の拡充と管理
  - 7)年間ランキングの作成
- 2.修正目標（トーナメント改革実施機運が急に高まったため、これに傾注すべく、当初方針を以下のとおり変更した。）
  - 1)国内大会の組織改革（平成14年4月1日立ち上げ）
    - \*前項1)・・1)項と同じく5)項をジョイント
  - 2)諸規則の拡充と管理
  - 3)年間ランキングの作成

## 目標達成度：

- 1.国内大会の組織改革… 100 %
  - 1)改革方針の立案と決定（平成13年6月～7月）
  - 2)全日本テニス選手権大会の抜本的見直し
  - 3)前項①、②に伴う「トーナメント管理規程」の抜本的改訂と、それに伴う[付則]の新設（JTT 大会管理規則・JOP 大会管理規則・全日本テニス選手権大会管理規則・スペシャルイベント管理規則）
  - 4)JOP ランキング規程の解消と新たなランキング規程の新設（JTT ランキング規定・JOP ランキング規定）
  - 5)関係先へのPR実施
    - ①9地域協会、46都府県テニス協会への概要説明会実施
    - ②メディア発表会実施
    - ③選手への説明会実施と改革概要説明文書の配布
    - ④JTT 大会ディレクター会議の実施
    - ⑤JTT 大会レフェリー会議の実施
    - ⑥テニス用具メーカーへの概要説明会実施
    - ⑦JTA ホームページへの概要掲載
  - 6)大会日程調整会議の実施
- 2.諸規則の拡充と管理… 100 %
  - 1)「コート友01年版」頒布と代金回収
  - 2)「コート友02年版」編集と発行・・・トーナメント改革に伴う新設規程・規則の増大で大作業だったが、予定どおり02年3月1日に発行できた。
- 3.年間ランキングの作成… 100 %

手順に従い予定どおり作成した。

## 具体的事業：

- 1.全日本テニス選手権大会  
11/5～11日 有明テニスの森（関東テニス協会主管）  
雨に祟られ日程を1日延期せざるを得なかったが、内容は昨年より充実した。
- 2.全日本室内テニス選手権大会  
02/3/4～10日 京都市体育館（京都府テニス協会主管）
- 3.トーナメント改革関連
  - 1)9地域および46都府県テニス協会への説明会（01年8月～9月・各地域）
  - 2)選手への説明会（01年11月東京にて男子選手、12月神戸にて女子選手対象）
  - 3)選手への説明文書配布（02年3月）
  - 4)02年4月～03年3月大会日程調整会議（01年11月・於：JTA）
  - 5)JTTディレクター会議（01年11月、02年3月・於：JTA）
  - 6)JTTレフェリー会議（02年3月・於：JTA）
- 4.諸規則関連
  - 1)「コートの手 01年版」頒布と代金回収（詳細は決算書ご参照）
  - 2)「コートの手 02年版」編集と発行（2万部+αを予定）
- 5.常設会議
  - 1)国内大会委員会常任委員会（01年6月、11月・於：JTA）
  - 2)国内大会委員会ルール部会（02年3月・於：JTA）

以上

# 審判委員会

委員長：森井 靖忠

## 平成13年度事業目標：

- 1.国際審判員の養成と有望新人発掘を積極的に実行するため、初めてその費用を予算化し新人を国内外に派遣し、指導員を各種大会に派遣する。
- 2.認定会
  - 1) C 級審判員認定会 年 15 回開催
  - 2) B 級審判員認定会 年 2 回開催
  - 3) A 級審判員認定会 年 1 回開催
  - 4) B 級レフェリー認定会 年 2 回開催
- 3.審判講習会・スクール
  - 1) 国体開催地のための審判講習会
  - 2) ITF レベル I スクール
  - 3) 学生のための講習会
  - 4) 審判員レベルアップスクール
- 4.各種大会へのレフェリー、審判員の派遣
- 5.「コートの子」改訂
- 6.審判員の待遇改善
- 7.審判員・レフェリーの登録管理

## 目標達成度：

- 1.初めて予算化された中で、新人及びバッジホルダーを海外に派遣し、また国内の国際大会その他に指導員を派遣し、審判員の質的向上をはかることが出来た。予算を全て消化しなかったが、事業の意義は大きく、次年度に向けて飛躍の第一歩となった。審判員の指導を強化した結果、5名のホワイトバッジをあらたに誕生させることが出来た。来年度には、ブロンズバッジの誕生の可能性も大きく、引き続き指導強化につとめていきたい。更に、学生の中から国際審判員に積極的になりたい新人も控えており、step up のために尽力していきたい。目標達成度は、満足のいくものであった。
- 2.認定会では、目標を大きく上回る認定会を開催した。A 級審判員は、日本を代表する審判員でなければならず、じっくりと実力をつけて欲しいとの配慮から合格者を出さなかった。B 級レフェリー認定会もほぼ日本を一周したが、実務経験が出来るよう都道府県レベルでのレフェリー採用大会の増加を働きかけていきたい。目標達成度は100%以上であった。
- 3.審判講習会・スクールでは、計画した講習会・スクールに加え、国際大会、国体等に指導員を派遣し、実地でのレベルアップスクールが出来、審判員にも非常に好評であった。こうした機会をさらなる増やしていきたい。
- 4.各種大会へのレフェリー、審判員の派遣では、年初に JTA 主催大会のアサインメントの希望調査を行い、それにもとずいて派遣するが、常に予定が変わること、優秀な人材が海外にでてしまう等のため、アサインメント担当委員は、大変な苦労を強いられている。その苦労により、大会が円滑に行われていることを強調しておきたい。
- 5.「コートの子」改訂では、レフェリー、審判に係る部分の記載事項及び写真を、国際審判員が中心となり改訂し内容の充実を図った。
- 6.審判員の待遇改善では、常に審判員の待遇を国際並に引き上げたいと考えているが、

最近の経済環境・JTA の経済的逼迫を考慮し、当分の間、待遇改善は棚上げにせざるを得なかった。

7. 審判員・レフェリーの登録管理では、公認審判員・レフェリー認定会及び資格更新手続きに関するマニュアルが確立し、登録及び更新の手続きが改善された。

**具体的事業名：**

1. デビスカップに主審を派遣
  - 1) ユニバーシアード北京大会に主審と新人を派遣
  - 2) オーストラリアオープン、ウィンブルドンに ITF 有資格者を派遣
  - 3) その他アジア各地に有資格者を派遣
2. 認定会
  - 1) C 級審判員認定会 年 28 回開催
  - 2) B 級審判員認定会 年 2 回開催
  - 3) A 級審判員認定会 年 1 回開催
  - 4) B 級レフェリー認定会 年 2 回開催
3. 審判講習会・スクール：
  - 1) フューチャーズのライン講習会・審判指導
  - 2) 国体：審判育成
  - 3) TTC, トヨタプリンセスに視察員を派遣
  - 4) レベル I スクールに講師を派遣
  - 5) 女子サーキットで審判員指導

以上

# ベテラン委員会

委員長：佐藤国三郎

## 平成13年度事業目標並びに達成度：

当委員会が主管する平成13年度第63回全日本ベテラン選手権大会と、第25回全日本ローンコートベテラン選手権大会は、当初の計画日程通り無事実施することができました。

また、その他の国内関連ベテラン諸大会についても、これまた当初の事業計画通りその推進と運営に協力することにより、生涯スポーツとしてのベテランテニスのより一層の普及と振興を図るとともに、併せて生甲斐のある社会の形成と健康増進・資質の向上に努めた結果、少子高齢化社会の福祉に大いに貢献することができたと思っております。

国際的には、ITF・ATF・EATAがそれぞれ主催・公認しています国際ベテラン諸大会に、例年通り多くのプレイヤーを派遣（団体戦の参加料を除き、全額自己負担）して、テニスを通じて国際交流と友好親善に大いに努め、特にITF主催の男女年令別世界ベテラン選手権大会（団体戦・個人戦）には、ここ10数年来連続して多くの選手を参加させて、今年度もまたITFより、アジア諸国の中で積極的に参加する唯一の国として高い評価を受けましたことは真に喜ばしいことです。しかし、今後は派遣選手の経済的負担について現状以上に配慮できるように努力したいと考えていますし、全日本ベテラン選手権大会への外国在住の外国人選手の念入れについて、積極策を講じたいと思っております。

## 具体的事業：

1.委員会の開催……事業計画の推進・実施と、次年度の事業計画・予算について討議しました。

1) 常任委員会—6回（2001/4/12、6/27、7/18、8/6、12/18、2002/2/4）

2) 全国委員会—2回（2001/9/14 兼全日本ベテラン選手権大会選手選考会、11/15）

2.国内大会の主催・主管と運営協力

1) 第63回全日本ベテラン選手権大会

期日：平成13年9月28日～10月4日

会場：名古屋・東山公園テニスセンター（砂入り人工芝コート20面）

種目等：男女年令別単複28種目

参加人数：男子480名、女子312名、合計792名

特別協賛社：株式会社日本ダンロップ

2) 第25回全日本ローンコートベテラン選手権大会

期日：平成13年11月12日～21日

会場：佐賀・ウィンブルドン九州テニスクラブ（天然芝コート13面）。

種目等：男女年令別単複28種目

参加人数：男子316名、女子233名、合計549名。

特別協賛社：笹川スポーツ財団（SSFスポーツエイド事業）

ウィンブルドン九州テニスクラブ

3) (財)日本体育協会主催・第1回日本スポーツマスターズテニス競技（委託事業）

期間：平成13年9月22日～25日

会場：宮崎市・シーガイアテニスクラブ（人工芝コート16面）

種目等：各都道府県協会よりそれぞれ選出されたJTA選手登録者

男子シングルス 35 才以上、男子ダブルス 45 才以上 各 1 名 1 組  
女子シングルス・ダブルス共 40 才以上 各 1 名 1 組

参加人数：男子 121 名、女子 118 名、合計 239 名

成績：男子単優勝…山田利光（宮崎）、複優勝…平岡康治・上本徳治（広島）

女子単優勝…花房るり子（岡山）、複優勝…国広順子・竹嶋久美（広島）

※なお各都道府県協会にご送付致しました「日本スポーツマスターズ 2001 大会報告書」に、下記の通り評述していますので、ご参照下さい。

（大会報告：P92 ～ 95、大会要項：P163 ～ 164、大会記録 P202 ～ 205）

4) 文部科学省主催・第 14 回全国スポーツレクリエーション祭（スポレク三重）

期間：平成 13 年 11 月 10 日～ 13 日

会場：桑名市総合運動公園コート（砂入り人工芝コート）

種目等：男女 30 才以上、40 才以上、50 才以上の混合ダブルス 3 組による都道府県対抗団体戦。

参加者数：52 チーム、468 名

5) 厚生労働省主催・第 14 回全国健康福祉祭（ねんりんピック広島）

期間：平成 13 年 10 月 6 日～ 8 日

会場：広島市広域公園テニスセンター（砂入り人工芝コート）

種目等：男女 60 才以上・男子 65 才以上のダブルス 3 組による都道府県対抗団体戦。

参加者数：47 都道府県と 12 政令指定都市よりの 62 チーム、558 名

3. 国際大会への参加

1) ITF 主催 2001 年世界ベテラン選手権 B グループ大会

① 団体戦（2 シングルス・1 ダブルス）

期間：平成 13 年 4 月 23 日～ 28 日。8 チーム、32 名参加

戦績等：男子 60 才以上（フォンクラム杯）	アデレイド	16 国中 5 位
男子 65 才以上（ブリタニア杯）	パース	14 国中 12 位
男子 70 才以上（クロフォード杯）	メルボルン	10 国中 5 位
男子 75 才以上（グラント杯）	パース	12 国中 5 位
女子 55 才以上（コノリー杯）	パース	9 国中 7 位
女子 60 才以上（マーブル杯）	アデレイド	9 国中 8 位
女子 65 才以上（ゴッドフリー杯）	パース	9 国中 8 位
女子 70 才以上（ギブソン杯）	メルボルン	10 国中 5 位

② 個人戦（パース・ロイヤルキングスパークテニスクラブ他）。

期間：平成 13 年 4 月 29 日～ 5 月 7 日

戦績等：男子 70 才以上シングルスで、森 成蹊選手（奈良）がベスト 8 に入賞したことと、団体戦男子 60 才以上（フォンクラム杯）で藤井道雄・広瀬均・小西一三・藤原堅三チームが強豪フランス・カナダ・オーストリア等を破って 16 ヶ国中 5 位に入賞したことは、喜ばしいことでした。

2) EATA 主催 2001 年東アジアベテラン都市対抗大会

① 団体戦（男子 50、55、60、65、70 才以上、女子 50 才以上、ダブルス 6 組と混合 1 組、合計 7 組）

期間：平成 13 年 10 月 10 日～ 16 日

会場：韓国・ソウル南山公園テニスコート（クレーコート）。

戦績等：参加 8 都市中、東京 A 組 5 位、東京 B 組 3 位。

チーム：団長…柳沢 彰、マネージャー…土屋善二、○印は各組キャプテン

A 組：○松浦 督、長谷川茂、森田 剛、北端大造、守屋 明、中川裕之、

堀井清司、池田富士夫、竹田和也、平井 泰、川本菊江、  
柳川幾実、中村洋子

B組：○喜多村篤、村上交周、永松岩雄、山本信義、平沢敏之、  
河谷久人、佐藤昭彦、山口泰一、小野敏男、川口温弘、  
小川加代子、松岡かよ子、森山紀世美

3) ITF 公認第 15 回北京市国際元老大会（男女年令別個人戦・自由参加）

期間：平成 13 年 10 月 18 日～ 23 日

会場：中国・北京市先農壇スポーツセンターコート（室内）

選手：全国各地より、男子 21 名、女子 24 名、合計 45 名参加。

戦績等：女子 50 才以上 2 位 入船美恵子（大阪）、山中寿子（大阪）  
女子 55 才以上 2 位 古賀真由美（福岡）、宮本節子（岡山）  
女子 60 才以上 優勝 飯塚初枝（長野）、中国選手  
女子 65 才以上 2 位 勝沼令子（新潟）、松島紀久子（岡山）  
男子 60 才以上 2 位 小早川裕彦（岡山）、中川政三（香川）  
男子 65 才以上 2 位 秋野 修（静岡）、千葉淳治（茨城）  
男子 80 才以上 2 位 仁坂幸夫（和歌山）、佐藤国三郎（東京）

以上

# 実業団委員会

委員長：齊藤 征隆

## 平成13年度事業目標：

- 1.日本リーグの充実を図る。
- 2.全国の実業団（企業）大会の充実を図る。
- 3.全国の実業団組織の確立を目指す。
- 4.ホームページ等による広報活動を積極的に推進する。
- 5.収支の改善を図る。

## 目標達成度：

- 1.大会関係
  - 1)第16回テニス日本リーグ（実業団テニスの強化大会）
    - ① JOP 上位の選手出場で大会の充実あり、選手、運営、観客の一体化を目指しているが近づきつつある。
  - 2)第40回全国実業団対抗テニス大会（実業団テニスの普及大会）
    - ①実業団の和が着実に広がりつつある。選手の熱気が感じられ選手のコミュニケーションも深まり着実に向上が見られた。
- 2.実業団組織関係
  - 1)組織の充実を図る為、「各地域実業団実態調査」を実施した。
  - 2)この調査結果をもとに今後は行動に結び付けて行きたい。
- 3.広報関係
  - 1)大会の経過、結果をリアルタイムでホームページで提供できた。
  - 2)後援の日本経済新聞社を中心に各マスコミの協力を得られ新聞報道された。
- 4.収支関係
  - 1)予定された事業計画を着実に遂行でき、収支も予定どおり。

## 具体的事業名：

- 1.第16回テニス日本リーグ
  - 1)1stステージ：平成13年12月7日（金）～9日（日）
  - 2)2ndステージ：平成14年1月24日（木）～27日（日）
  - 3)決勝トーナメント平成14年2月9日（土）～10日（日）  
会場：決勝トーナメントは東京体育館
- 2.第15回全国実業団対抗テニストーナメント（A大会）
  - 1)平成13年10月25日（木）～28日（日）  
会場：大阪・江坂テニスセンター
- 3.第40回全国実業団対抗テニス大会
  - 1)平成13年8月24日（金）～26日（日）  
会場：北海道・ニセコ東山プリンスホテルコート

以上

# 国体委員会

委員長：森 清吉

## 平成13年度事業目標：

- 1.第 56 回宮城国民体育大会及び第 25 回全日本都市対抗テニス大会（高知県春野町・国民体育大会リハーサル大会）の運営指導及び実施。
  - ・2001 年宮城国体より成年男子並びに成年女子が 32 都道府県、少年男子 47 都道府県、少年女子 43 都道府県の参加となる。このため、成年男子のベテラン種目がなくなり、その人数を少年枠に増やし、少年女子が 32 から 43 への 11 県増加した。このため大会運営の迅速化が必須であった。
- 2.第 62 回秋田国民体育大会の第 1 回正規視察  
競技施設・宿泊・交通・審判員育成状況について、行政・テニス協会と会議。

## 目標達成度：

- 1)宮城国民体育大会については、試合数が増加したため、時間内に試合が終了するか心配であったが、地元、宮城県テニス協会の運営が素晴らしく、予定時間内に終了することが出来た。これは、昨年度の全日本都市対抗テニス大会のリハーサルの経験を生かし、一年内に改善したことが成功の原因である。また、地元選手の活躍も見逃すことが出来ない。
- 2)全日本都市対抗テニス大会（国民体育大会リハーサル大会）は、高知県春野町で行われ、期間中に雨が降り雨天時の対応等ができたので、本大会でも対応の仕方がわかり、良きリハーサル大会であった。この経験を生かし、本大会成功に結びつけてもらいたい。リハーサル大会の重要性は本大会終了後に理解できる事項である。

## 具体的事業名：

- 1.第 25 回全日本都市対抗テニス大会抽選会  
期日：6 月 27 日、場所：高知県春野町
- 2.第 62 回秋田国民体育大会正規視察  
期日：7 月 12 日～13 日、場所：北野田公園テニスコート（河辺町）、  
県立中央公園テニスコート（雄和町）
- 3.第 25 回全日本都市対抗テニス大会  
期日：7 月 26 日～29 日、場所：高知県立春野総合運動公園テニスコート
- 4.第 56 回宮城国民体育大会抽選会  
期日：9 月 20 日、場所：宮城県仙台市
- 5.第 56 回宮城国民体育大会テニス競技  
期日：10 月 14 日～17 日、場所：宮城県仙台市泉総合運動場泉庭球場、  
仙台市屋内グラウンド（シェルコムせんだい）
- 6.国体委員会開催
  - 1)全日本都市対抗テニス大会/期日：7 月 26 日、場所：高知県高知市
  - 2)宮城国体抽選会/期日：9 月 20 日、場所：宮城県仙台市
  - 3)宮城国体/期日：10 月 14 日、場所：宮城県仙台市

以上

# 個人登録委員会

委員長：会川 克行

## 平成13年度事業目標：

- 1.登録者数 8,000 名を目標とする。
- 2.個人登録事務部門の充実と強化。
- 3.アマチュア登録基準の徹底。
- 4.個人登録を選手登録に改称する事の検討。
- 5.プロフェッショナル登録の管理をアマチュアと一本化することを、選手委員会と検討する。

## 目標達成度：

- 1.登録者数 8,065 名（達成率 100.8%）、剰余金 8,858 千円（達成率 145.2%）と目標を上まわった。
- 2.事務部門の充実強化は不十分で、平成 14 年度に持ち越しとなった。
- 3.選手登録に改称する件は、平成 14 年度より改称することになった。
- 4.登録者の管理に関するプロ・アマ一本化の件は、平成 14 年度に持ち越しとなった。

## 具体的事業名：

- 1.関係部門は、前年より個人登録制度の理解が深まり、JOP 対象大会やベテラン JOP 大会の参加申込書に登録証のコピーを添付することを条件とする大会が増えた。
- 2.事務部門の充実強化は不十分乍ら、平成 14 年度選手登録証の発行は、例年より大幅に早まった。
- 3.平成 14 年 1 月末日時点に於ける未登録の JOP 保持者 6,242 名について登録の催促を行い、3 月末までに 2,389 名の登録を得ることが出来、3 月末で未登録者の抹消を行った。
- 4.平成 13 年度の還付金の対象者について、都道府県別の名簿を作成し、地域協会へ配布する準備が出来た。
- 5.個人（選手）登録証について、下段の見本のように一目瞭然に年度・有効期限等が確認出来るように作り直し、平成 14 年度より使用することになった。

以上

〈参考〉2002年度アマチュア選手登録証



# 普及指導委員会

委員長：正木 茂

## 平成13年度事業目標：

「普及事業」「認定事業」「指導者育成事業」を柱として、各都道府県のテニスを盛り上げテニス人口の拡大を図るため、強化本部、ジュニア育成本部、各関連団体との連携のもと、各事業を推進した。

## 目標達成度：

### 1.普及事業

- 1) 「テニスの日」の実施に関し関連団体との連絡のもと、積極的な推進、協力を行った。
- 2) 「カモンキッズ」に対する実技協力を行った。

### 2.認定事業

- 1) 文部科学大臣認定公認指導者制度において、B級コーチ・C級コーチ・C級教師・A級スポーツ指導員の認定を行った。
- 2) レイティングの認定に関してはレイティング制度自体の見直しを行った。

### 3.指導者育成事業

- 1) コーチーズカンファレンスを新装なった国立スポーツ科学センターにて行った。
- 2) 低年齢ジュニア指導者講習会を開催した。
- 3) 指導教本の作成を強化本部、ジュニア育成本部との関係のもとで進めている。
- 4) 指導ビデオの作成を強化本部、ジュニア育成本部との関係のもとで行った。

### 4.その他

- 1) ホームクラブ制度確立への協力

## 具体的事業名：

### 1.普及事業

- 1) 「テニスの日」メインイベントを9月23日に有明テニスの森において行った。共同イベント、個別イベントは9月23日の前後に開催された。
- 2) 「カモンキッズ」への実技協力を、2002年1月20日に神奈川県会場、2月11日に滋賀県会場にて行った。

### 2.認定事業

- 1) 公認B級コーチ専門科目  
前期：東京 2002/1/15～17、後期：東京 2002/2/25～27
- 2) 公認C級コーチ専門科目  
前期：東京 2002/1/23～26、後期：大阪 2002/3/2～5
- 3) 公認C級教師専門科目  
前期：東京 2002/1/23～27、後期：東京 2002/2/20～24
- 4) 公認A級スポーツ指導員専門科目  
東京 2001/12/12～16
- 5) 公認B・Cスポーツ指導員  
茨城・石川・京都・大阪・兵庫・岡山・広島の各県で認定事業を行った。

### 3.指導者育成事業

- 1) コーチーズカンファレンスは2002年3月10・11日に447名の参加者で開催した。

2) 低年齢ジュニア

- ① 東 北・岩手 2002/1/18 ～ 20
- ② 北信越・新潟 2002/3/9 ～ 10
- ③ 東 海・岐阜 2002/1/3 ～ 5
- ④ 関 西・大阪 2001/12/22 ～ 24
- ⑤ 中 国・山口 2001/12/22 ～ 24
- ⑥ 九 州・福岡 2002/3/15 ～ 16

3) 指導ビデオは各地域協会への配布とコーチーズカンファレンス参加指導者への配布を行った。

4. その他事業

- 1) ホームクラブ委員会への参加と協力を行い、制度の運用がスタートした。

以上

# 国際委員会

委員長：内山 勝

## 平成13年度事業目標：

世界のテニス界並びに国際諸団体の情報を収集し、日本テニス界の必要部署に迅速に伝達する。又、日本テニス界の要望を国際諸団体に反映させテニス界の発展に貢献する。更に、日本テニス界に於ける国際事業に関し、実行またはサポートを行う。

## 目標達成度：

例年通り各種国際会議に出席し、情報の収集と意見交換を行い国内関係部署に報告した。また、日本国内外で開催された各種国際大会並びに事業の運営協力と国際親善協力を行い、当初計画はほぼ達成した。具体的事業内容は以下の通り。

## 具体的事業：

### 1.国際会議への派遣及び出席者

#### 1)国際テニス連盟（ITF）関係

##### ①総会 2001年9月10日～14日於カンクーン（メキシコ）

- ・出席者：川廷栄一副会長
- ・各事業、決算、加盟国等の承認、新ルールの採用。
- ・役員改選で川廷理事が再選（11期目）

##### ②理事会

- ・出席者：川廷理事
- ・2001年7月9日～12日於グスタッド（スイス）
- ・2001年11月23日～26日於ダブリン（アイルランド）
- ・2002年2月22日～24日於ロンドン（イギリス）

##### ③委員会

- ・出席者：川廷栄一（ジュニア委員長、オリンピック、男子テニス）、渡邊康二（デ杯アジア/オセアニア地域）、内山勝（ジュニア）、米沢徹（コーチーズ）
- ・2001年11月の改選まで各委員とも1～3回会議に出席。
- ・2001年11月より下記の方々が委員に推薦された。
- ・川廷栄一（ジュニア委員長、オリンピック、普及アドバイザー）、神和住純（コーチーズ）、川廷尚弘（男子サーキット、チャレンジャーズ）

##### ④事務局

- ・川廷尚弘（ITF/ATF トーナメントエクゼクティブ、フルタイムスタッフとして業務担当し、アジアテニス発展途上国の全般指導）

#### 2)アジアテニス連盟（ATF）関係

##### ①総会 2002年3月7日～9日於広州市（中国）

- ・出席者：川廷栄一、内山勝、川廷尚弘
- ・大会日程、事業、決算、加盟国等の承認。

##### ②全体会議 2001年9月10日於カンクーン（メキシコ）

- ・出席者：川廷栄一

##### ③理事会 2001年12月20日～22日於香港

- ・出席者：川廷栄一、川廷尚弘

##### ④加盟国協力 2001年4月1日～4日

- ・北朝鮮テニス援助のため、川廷栄一、川廷尚弘が器具の提供と指導のため訪朝。
- 3) 国際学生スポーツ連盟 (FISU) 関係 2001年8月19日～20日於北京 (中国)

- ・出席者：川廷栄一テニス委員長

4) 女子選手協会 (WTA) 関係

- ① 常任理事会、トーナメントディレクター会議、トーナメントカウンスル、レスト・オブ・ザ・ワールド会議、選手評議会会議、ティア I、II、III 会議等に野地俊夫理事が下記の日程で出席。
- ② 2001年5月28日～於：全仏オープン
- ③ 2001年6月25日～於：ウィンブルドン
- ④ 2001年8月27日～於：US オープン
- ⑤ 2001年10月29日～於：チャンピオンシップス
- ⑥ 2002年3月18日～於：ナスダック 100 オープン
- ⑦ 主な会議内容は、WTA の最高経営責任者がマクガイア氏からウルフ氏に交代、カレンダー、チャンピオンシップスをミュンヘンからロスアンゼルスへ変更、TV 海外放映権プール制、オフィスの統合、ゴールドエキザンプトプレーヤー、WTA のオペレーション、賞金・ルールなど。

2. 国際行事、大会への出席及び担当

1) ユニバーシアード大会

- ・川廷栄一委員長が運営全般、川廷尚弘がレフェリー、岡村徳之が国際オフィシャルとして運営を担当。

2) 国際テニス連盟関係

- ① 世界コーチーズワークショップ
  - ・2001年10月28日～11月1日於バンコック
  - ・川廷栄一、神和住純他出席
  - ・アジア初の講習会に世界各国 350 名のコーチと共に出席
  - ・特にジュニアの育成・強化策について研修
- ② デ杯、アジア/オセアニア予選
- ③ フェド杯、アジア/オセアニア予選
- ④ 男子サテライトサーキット、フューチャーズ
- ⑤ 女子プロサーキット
- ⑥ ワールドジュニアテニス、ワールドユースカップ各アジア予選
  - ・上記各大会に JTA の国際オフィシャルがアジア地域のオフィシャルと共に運営を担当。

3) アジアテニス連盟関係

- ① アジア選手権大会
- ② アジアベテラン選手権大会
- ③ アジアインターシティーベテラン大会
  - ・上記大会に国際委員、ITF オフィシャルが運営協力。

3. 海外からの役員への対応

アジアテニス連盟、ウツラパシーエクゼクティブディレクターが世界スーパージュニア (大阪) とジャパンオープンに来日。盛田会長、佐藤政廣常務理事他で対応。

4. 海外での JTA 役員への対応

全豪、全仏、全英、全米他世界各大会への協会役員出席に際し、ITF 並びに当該協会に対し、ID カードの申請、現地での対応を要請。

5. 日本オリンピック委員会 (JOC) 関係 (川廷栄一 JOC 理事)

JTA より選出されている役員が、JOC 関係の会議、行事に出席し、各々の事業に

協力。

1) 2008年大阪オリンピック招致

- ・ IOCの総会（2001年7月10日～15日於モスクワ）に松岡修造が招致メンバーとして出席。

2) 東アジア競技大会

- ・ 総合競技大会の（2001年5月19日～27日於大阪）スポーツディレクターとして川廷栄一が運営を担当。

3) アジアオリンピック評議会（OCA）

- ・ 青森総会（2001年5月13日～18日）に川廷栄一がJOC代表の一員として出席。

4) 米国オリンピック委員会

- ・ 日米両オリンピック委員会の2国間パートナーシップ協議の為、川廷栄一がJOC竹田会長とワシントンでUSOC会長と面談。

5) 東アジア競技大会総会、理事会

- ・ 青森大会及び2005年のマカオ大会の開催についての会議に川廷栄一が出席。  
（2001年12月10日於大阪、12月20日於マカオ）

以上

## クラブ JTA 推進委員会

委員長：橋本 有史

### 平成13年度事業目標：

- 1.理事会評議員会を通じてクラブ JTA の必要性や展開方法について十分な意見交換を行う。
- 2.上述の 1.を通じて展開方法を企画し推進する。
- 3.年間 1 千万円（募金を含む）会費収入獲得を目標とする。
- 4.会員サービスの開発、情報の積極開示に努める。

### 目標達成度：

- 1.ジュニア本部、強化本部との協議を重ね、会費収入の使途や情報開示方法等についての共通認識を持つことができた。
- 2.会費収入は 500 万円程度と目標の半分程度の収入しかあげられなかったが、盛田会長よりの特別寄付金 2000 万円を頂き、結果として目標を達成する形となった。

以上

# 企画委員会

委員長：辻 季之

## 平成13年度事業目標：

テニス界を取り巻く環境分析に基づく事業機会を創造する企画づくり。

- 1.他スポーツ協会における事業内容の調査・分析に基づいた企画の立案と実施
- 2.テニス界におけるマーケット調査・分析に基づいた企画に基づいた企画の立案と実施

## 目標達成度：

マーケティング分析等、環境調査について十分なアクションがとれておらず、目標に対しての進捗度合いは未達である。(14年度は、具体的アクションを起こし目に見える形での結果を残したい。)

## 具体的事業名：

- 1.他スポーツ協会における事業内容の荒い出し。
- 2.「テニスの王子様」におけるパブリシティ内容の企画・立案・実施
- 3.上記、JTA パブリシティ枠における企画コンセプトを反映したロゴマークの企画・制作（※ロゴマークを活用した2次展開を行なう為の布石づくり）

以上

# 広報委員会

委員長：橋本 有史

## 平成13年度事業目標：

- 1.テニス協会のホームページ、インターネットを通じてリアルタイムに的確な情報を発信する。
- 2.協会の機関紙として JTA ニュースを発行し協会活動について理解を得る。
- 3.種々のマスコミ関係機関とのコミュニケーションを充分に行いメディアへの十分な露出を図る。
- 4.対外的に公式見解が必要な種々の事項についての確かつ正確な形で発表する。

## 目標達成度：

下記に示すように全体としては目標を達成したと考えている。しかしながら対外発表やマスコミ、メディアとの関係緊密化は専務理事にほとんどお願いする結果となった。

## 具体的事業名：

- 1.HP のアクセス数はページビューで 1000 万回を突破した。
- 2.メールマガジン「テニスファン」を 18 回発行し 5000 名を超える読者を獲得した。
- 3.AIG オープン期間中に上記テニスファンの AIG オープン特別号を毎日発行し高い評価を得た。
- 4.マスコミ、メディア用にメディアガイドを作成した。
- 5.JTA ニュースは予算の関係もあり年 1 回の発行のみに終わった。

以上

# プロモーション委員会

委員長：青木 弐

## 平成13年度事業目標：

種々の協会主催イベントの付加価値を高めると共にプロモーション活動を通じて観客動員を行い、スポンサー、観客（テニスサポーター）、選手の満足度を向上させ、「観る」テニスの振興、協会主催イベントの収益構造の改善を図る。

## 目標達成度：

- 1.有明コロシアム（協会主催・主管）での観客動員数が昨年比約2万5千人増、約50%増となった。→選手、メディア（新聞・雑誌・TV放送）、観客（テニスサポーター）、スポンサーの相乗効果が現れた。
- 2.盛田会長の掲げる「サービス精神」を常に具現化して行くことがテニス界の発展に繋がる事を改めて確認すると同時に今後もスポンサー、テニスサポーター、選手の満足度を向上させる為の提言・活動に結びつけることにした。
- 3.（社）日本テニス事業協会、普及委員会、強化委員会と協同にて、ナショナルトレーニングセンター返却に伴う選手強化拠点の喪失を補填するものとして、選手の為の「ホームクラブ制度」を発足させた。

## 具体的活動：

- 1.テニスサポーターの満足度を高めるメディアとの交流活発化
- 2.スポンサーとの関係緊密化、満足度の向上
- 3.テニス選手支援対策
- 4.テニス関係団体、支援組織、インターネット事業者との関係緊密化
- 5.テニス施設供給者などとの関係強化

以上

# 情報委員会

委員長：橋口 健蔵

## 平成13年度事業目標：

- 1.協会内外の情報収集と情報の迅速な伝達と経費の削減
- 2.協会内外への広範囲の情報の伝達方法の調査
- 3.IT化の推進

## 目標達成度：

- 1.理事、委員長、評議員、地域・都道府県テニス協会への情報の伝達や連絡、また各会議の議事録の送付を E-メールにて行うようになり情報の早期伝達と経費の削減になった。
- 2.各委員会から地域・都道府県協会への情報の伝達方法や経費、その他日本テニス協会からクラブ JTA 会員、個人登録者、プレーヤー登録者、各種指導員・コーチ等広範囲な情報の伝達に関する研究調査はまったくできなかった。
- 3.JTA 以外の各テニス協会内外においての IT 化の推進に寄与できた。

## 具体的事業名：

- 1.六月には各地域・都道府県宛てに PC に関するアンケート調査を実施する。
- 2.七月にはアンケートの結果報告と未回収のテニス協会へアンケートの再度提出依頼を行う。また、アンケートを提出していただき、E-メールでの情報伝達を賛成していただいたテニス協会へのデジタルによる情報伝達を開始する。
- 3.JOP ランキングのホームページ上での無料提供（加工出来るエクセル使用）に関しては未決定のままです。

以上

# ジャパンオープン委員会

委員長：有沢 三治

## 平成13年度事業目標：

世界最高レベルのテニスを国内テニスファンに提供する事を通じテニスの普及を図る。また、日本のトップ選手に活躍の場を提供する事により強化に協力する。目標の観客動員は4万人とする。

## 目標達成度：

9月29日(土曜日)から10月7日(日曜日)の9日間、東京有明の森にて予定通り開催した。

強化の面では、男子で単複合計10名が本選へ出場、単で鈴木選手がベスト8に進出し、複では嶋田選手が同じくベスト8に進出した。

女子では単複合計9名が本選に出場、単では杉山選手がベスト4へ小畑選手がベスト8に進出した。複では杉山・吉田のチームがベスト8に進出した。

観客動員数では35,641名と目標には達しなかったものの1997年以降の減少傾向に歯止めを掛ける事が出来た。この数字は昨年比132.5%で8,740名の増加である。東京都の休日である初日の月曜日が雨であった事が最大の原因と考えられる。

以上

# ドーピングコントロール委員会

委員長：助川 卓行

## 平成13年度事業目標：

基本の目的は、日本テニス界からドーピングを完全に排除することである。そして、選手の健康を守り、スポーツ倫理を確実に尊重することを周知徹底すると共に、選手が、ドーピングについての不勉強・不注意により選手生命を失うことのないよう、アンチ・ドーピング啓蒙活動を行う。

## 目標達成度：

選手達の、ドーピングについての認識が予想以上に低い現状を踏まえ、まず、選手にドーピング検査を体験して頂き、その折に出来るだけアンチ・ドーピングにつき話し合う事が、遅々とした歩みとはいえ、着実な活動であると考え、ドーピング検査の実施に重点を置いた。予算の制約もあり、実施人数は、2大会で16名であったが、対象となった選手以外の選手・コーチ・指導者等にも、この実施を通じて、認識を高める効果をあげることが出来たと考える。

なお、平成13年9月に「(財)日本アンチ・ドーピング機構」(JADA)が設置され、平成14年度から、「スポーツ振興くじ」(toto)からの助成も得て、積極的にアンチ・ドーピング活動が展開されることになっている。13年度の成果を新年度につなげ、更に発展させるべく努力したい。

## 具体的事業名：

### 1.ドーピング検査の実施

1)全日本テニス選手権大会において実施した。

①場所：有明コロシアム内資料室に、ドーピング検査室を設置した。

②検査対象者：男子・女子 各4名 計8名

③検査結果：8名全員につき、「禁止薬物は検出されず」との結果が出、全員“陰性”と判定された。

2)島津全日本室内テニス選手権大会において実施した。

①関西地域に於ける初めての検査であったが、大会ディレクターのご協力により、円滑に実施出来た。なお、当初計画では、男子選手についても実施する予定で、英文入りの新検査用紙も作成したが、ATPの了解を得ることが出来ず、残念ながら男子選手の検査実施は見送った。

②場所：京都市体育館内に、ドーピング検査室を設置した。

③検査対象者：女子選手 8名

④検査結果：8名全員につき、「禁止薬物は検出されず」との結果が出、全員“陰性”と判定された。

### 2.サプリメント(栄養補助食品)対応

サプリメント業界などからの資料収集に努めると共に、テニスプレーヤー・トレーナー等からの照会に対応した。

また、医事委員会が3ヶ月毎に「テニス・メディカルセミナー」を開催しているが、「第6回テニス・メディカルセミナー」(平成13年12月15日開催)(テーマ：テニスと栄養)の講師田口素子氏に依頼して、講義の中でサプリメントに関する考え方をお話し頂き、“サプリメントに頼るべからず”“サプリメントは心のドーピング

である“との基本の考え方をお示し頂いた。

### 3. アンチ・ドーピング啓蒙活動

#### 1) ナショナル選手へ資料送付

- ① 11月に開催された全日本テニス選手権大会の直前に、同大会時にドーピング検査を実施する旨の告知をすると共に、オリンピック委員会発行の「アンチ・ドーピングガイドブック」(2001年発行分)を送付した。送付対象者は、男女各29名計58名である。なお、同時に「医事申告書」用紙も同封送付した。

#### 2) 全日本テニス選手権大会時の啓蒙

- ① 大会プログラムに「アンチ・ドーピングについて」のタイトルで、一般の方にも判りやすい記事を掲載した。
- ② 大会プレーヤーズラウンジにおいて、次ぎのアンチ・ドーピング資料の配付を行った。“アンチ・ドーピング ガイドブック” “ドーピング検査 Q & A” “アンチ・ドーピング使用可能薬リスト” “アンチ・ドーピング カード” “大会プログラムドーピング記事写し” “医事申告書用紙” 以上6種配布は、机上に配置し自由持参方式としたが、持参数は、どの資料も前年度を大幅に上回った。特に本戦出場選手の場合、“アンチ・ドーピング使用可能薬リスト”が46名(前年比766%)、“アンチ・ドーピング カード”が87名(前年比621%)の選手等にお持ち帰り頂き、関心の高まりが感じられた。

### 4. アンチ・ドーピングに関する情報の収集

#### 1) ドーピング陽性の事例を収集した。

- 2) 最近、テニスプレーヤーの中で、痙攣の解消のため、漢方薬の「芍薬甘草湯」を使用する人が増大しているようである。テニスプレーヤーからの照会も有ったので、オリンピック委員会に「芍薬甘草湯」に、禁止薬物が含まれていないかとの文書照会をした。その結果、「芍薬甘草湯について入手出来る情報からは、明らかな禁止薬物が含まれるとは言えません。ただし、漢方薬には、未知の成分が含まれていますので、「芍薬甘草湯」が禁止薬物を含まないという保証は出来ません。芍薬甘草湯は、副作用に注意すべき漢方薬として有名です。漢方薬とは言っても医療用医薬品ですので、きちんとした診断のもとに処方を受けて使用すべきものと考えます。」とのご回答を頂いた。現在整備中のホームページにこの内容を掲載することを検討している。

以上

# ドーピング判定委員会

委員長：渡邊 康二

## 平成13年度事業目標：

ドーピングコントロール委員会が中心で実施するアンチドーピングの啓蒙・徹底・検査を受け、陽性者が出た場合に規則に従って迅速かつ正当なる処分を該当者に行うとともに、再発防止を目的とする。

## 目標達成度：

平成13年度における陽性者の発生はなしであった。

以上